

標 題

全国モデルの斐川町農業！あと0.8ポイントで国の目標集積率80%に！
～土地利用型農家と集落営農組織とも新たな展開に～

(ダイジェスト)

出雲市斐川町は平成の合併以前から、認定農業者、集落営農組織の育成を積極的に進めてきた結果、本年3月末時点での農地集積率が79.2%となり、国が目標とする8割集積が目前となっています。今後は農地集積が大きく見込めないことから、農地の集約化・高度利用、ICTの導入による省力化・低コスト化、組織の広域連携化など、新たな展開をしていくこととなります。

5月17日(水)の斐川町土地利用型農家協議会第17回総会に続き、今月21日(水)に斐川町集落営農組合連絡協議会第23回総会が開催され、斐川町水田農業の相当部分を担う両協議会における今後の方向性等が確認されました。

斐川町では認定農業者と集落営農組織により、全農地の4分の3が集積され、中でも集落営農組織は過半近くをカバーしており、極めて重要な存在となっています。

全国のモデルとも言える高い集積率により、今後各経営体とも規模拡大が大きく見込めないため、農地の集約化や高度利用、またはICTの導入による省力化・低コスト化、更には経営体間の広域連携化等を模索しながら経営発展していくことにしています。

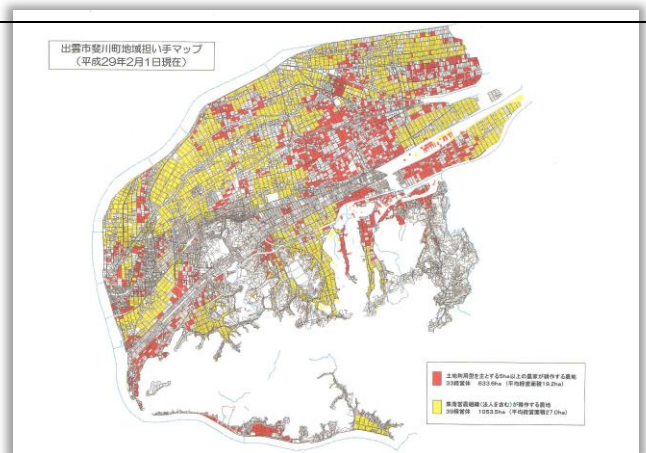
昨年度実施された「集落営農組織の実態調査」からも、全体的に「現在よりも厳しい組織運営になるが、経営面積は維持し、構成員みんなで作業を行い、新たな品目を栽培する。施設・機械については他組織と共同利用を継続・拡大する。」という傾向が読み取れました。

既に一部地域で集落営農の連携議論が始まりつつあり、また認定農業者と集落営農組織間の連携も必要ではないかと言った声も聞かれます。

当普及部としては今回の実態調査を踏まえた上で、個別の集落営農組織または認定農業者の声を聞きながら、関係機関と連携し、全国に誇る斐川町水田農業の新たな発展を支援していくことにしています。

【農地集積状況：H29.3時点】

区 分	経営体数 (法人数)	集積面積 (ha)	農地集積率 (%)
認定農業者	79 (10)	729	31.5
集落営農組織	39 (32)	1,061	45.9
認定新規就農者	5	4	0.2
水準到達農業者	5	6	0.3
育成すべき農業者	16	30	1.3
合 計	144 (42)	1,830	79.2



斐川町の集積マップ
 (赤：農家(5ha以上)、黄：集落)